

事業コード	H18-建-新-4		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(雪寒)		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	防雪事業		班 名	企画班 (tel) 018-860-2485
路線名等	(主)秋田昭和線		担当課長名	檜森 悦朗
箇所名	秋田市手形山		担当者名	主幹兼班長 土谷 諄一
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	01	施 策 名	四季を通じて快適な生活環境の確保
	指標コード	04	施策目標(指標)名	消・融雪施設等整備率

## 1. 事業の概要

事業期間	H19 ~ H21 (3年)		総事業費	3.0億円	国庫補助率	6/10	
事業規模	延長L=670m、幅員W=9.0(21.0)m、(5.0-0.5-3.0-1.0-6.0-0.5-5.0)						
事業の立案に至る背景	<p>本路線は秋田市中心部の東側に位置し、秋田市御所野を起点として潟上市(国道7号交点)に至る内環状道路であり、市街地の交通分散や秋田自動車道・三次医療施設へのアクセス道路として重要な路線である。また、沿線の宅地化も進んでおり、生活道路としての機能も兼ね備えている。しかし、当該区間は、車線数が前後の4車線から2車線に減少しているうえ急勾配(Imax=7%)であり、慢性的な渋滞箇所(渋滞長L=1,200m、交差点通過時間約11分)となっている。</p> <p>秋田市を縦断する幹線道路として、冬期における安全を確保するとともに、慢性化している渋滞を解消するため、新規箇所として要望するものである。</p>						
事業目的	<p>冬期における安全で円滑な交通の確保 市街地環状道路としての機能確保(渋滞解消) 第二次緊急輸送道路としての機能確保(防災・危機管理の充実)</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度以降
	事業費		300,000	20,000	140,000	140,000	
	経費 内訳	工事費	285,000	19,000	133,000	133,000	
		用補費					
		その他	15,000	1,000	7,000	7,000	
	財源 内訳	国庫補助	180,000	12,000	84,000	84,000	
		県 債	113,000	7,000	53,000	53,000	
その他 一般財源		7,000	1,000	3,000	3,000		
事業内容			詳細設計 測量	車道無散水消 雪工	車道無散水消 雪工		
調査経緯	平成16・17年度 渋滞調査、渋滞対策検討						
上位計画での位置付け	あきた21総合計画「第3期実施計画」における「快適で安全な生活を支える環境づくり」を支援する事業						
関連プロジェクト等	あきた21総合計画「第3期実施計画」における「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」：渋滞の解消						
事業を取り巻く情勢の変化	急勾配により事故が多発している。(事故率89件/億台km) 今後、飯島工区・飯島北工区が供用することにより、さらに交通量の増加が予想される。						
事業効率把握の手法	指 標 名	消・融雪施設等整備率					
	指 標 式	整備済延長/計画延長					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	60 %		データ等の出典	道路課調査による		
	達成値 b	57 %					
	達成率 b/a	95 %		把握の時期	平成18年 4月		

## 2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	秋田市を縦断する幹線道路であり、駅東地区の生活道路でもあることから、冬期における安全性を早急に確保する必要がある。(Imax=7%) 交通量が増加していることにより、渋滞が慢性化している。 (渋滞長L=1,250m、交差点通過時間約11分)	30点
緊 急 性	第二次緊急輸送道路に指定されており、防災管理上、緊急に整備をする必要がある。 今後、飯島工区、飯島北工区の供用が予定されており、交通量の増加が予想される。	11点
有 効 性	三次医療施設(秋田大学付属病院・秋田赤十字病院)へのアクセス道路として、冬期の安全と渋滞解消による定時性を確保する必要がある。 駅東地区における生活道路として、交通の円滑化及び安全性を確保できる。	14点
効 率 性	道路区域内で多車線化を計画することにより、新たな用地取得を発生させないようにコスト縮減を図っている。 約20,000台/12hの交通量があるうえ今後も増加が予想されており、多車線化と同時に冬期の安全性を確保する当事業の効率性は高い。	15点
熟 度	地域住民から、渋滞解消の要望が多い。	10点
判 定	ランク ( )	80点
	判定ランク であり、事業箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留	80点
	評価結果から、事業実施箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	

## 3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定 改善して選定 保留
	本路線は、秋田市の環状道路として重要な路線であるが、当該箇所は急勾配であり、慢性的な渋滞箇所となっている。今回の整備は、冬期における安全の確保と渋滞の緩和を図るもので、現幅員のまま、3車線化と無散水消雪施設を整備するものであり、事業実施は妥当と判断される。

## 4. 財政課長意見

意見内容	選定 改善して選定 保留
	当該区間は、秋田市内の内環状道路であり重要な路線であるが、交通量の増加により渋滞が慢性化していることから、当事業の実施は妥当と考える。

## 5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定 改善して選定 保留
	事業の実施は妥当である。

## 6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

当該箇所を国に新規要望する。 事業実施にあたっては、コスト縮減等に努める。
--

## 7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。
----------------

評価種別 新規箇所評価  
適用基準名 防雪事業（車道無散水施設）

事業コード(H18-建-新-4 )  
箇所名 (秋田市手形山 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	<b>事業の必要性</b>					
	県関与の必要性	雪寒指定路線である 雪寒指定路線でない	5 0	5		
	県民ニーズ	一般県民を対象とした調査でニーズが高い 一般県民を対象とした調査でニーズを把握 一般県民を対象とした調査を行っていない	5 3 0	5		
	社会情勢変化による需要強化	増大している 特に変化はない 低下している	5 3 0	5		
	道路の現状 ・縦断勾配 6% ・現道の混雑度 1.0 ・人家連たん又は交差部 ・事故、災害が発生（過去5カ年） ・バス路線	5件該当 4件該当 3件該当 2件該当 1件該当 該当なし	15 12 9 6 3 0	15		
	計		30	30		
	緊急性	<b>緊急輸送道路又は緊急確保路線</b>				
		指定路線である 指定路線を補充する 指定路線と関連がない	5 3 0	5		
		事業未実施の影響 周辺への影響等が大きい 周辺への影響等が小さい	5 1	5		
		他事業との関連 関連事業との調整で緊急性が高い 関連事業との調整で緊急性が低い	5 1	1		
計			15	11		
有効性	<b>期待される具体的効果</b>					
	緊急医療施設へのアクセス	直接アクセスする 間接的に補充する アクセスへの貢献は小さい	5 3 1	5		
	高速IC、空港、港湾等へのアクセス	直接アクセスする 間接的に補充する アクセスへの貢献は小さい	5 3 1	3		
	冬期観光施設へのアクセス	直接アクセスする 間接的に補充する アクセスへの貢献は小さい	5 3 1	1		
	上位計画への貢献度 あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	5 3 0	5		
	市町村合併関連	市町村合併の推進に貢献する 市町村合併の推進には特に影響しない	5 0	0		
	計		25	14		
	効率性	<b>事業実施のコスト縮減</b>				
		該当項目数	有り 無し	5 0	5	
		交通量	1,000台/日以上 500台/日以上～1,000台/日未満 300台/日以上～500台/日未満 300台/日未満	10 7 4 0	10	
計			15	15		
熟度		<b>地元との合意形成の状況</b>				
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く、要件の同意をクリアしている 意向が強く、要件の同意を概ね得ている 意向が一部で強く、要件の同意を得ていない	5 3 1	5		
	市町村の参画	積極的に参画し、要望書等の提出がある 参画している 参画していない	5 3 0	0		
	環境との調和 環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮が不十分で、検討している 特に配慮はない	5 3 0	5		
	計		15	10		
合計			100	80		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度が高い	80点以上		
	優先度が低い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		